

ニデックパークC棟

Nidec Park Building C

No. 06-030-2023作成
新築
事務所／研究施設

| | | | | | | |
|-------|-------------------|--------------|---------------|-------------|--------------|--|
| 発注者 | ニデック株式会社 | カテゴリー | | | | |
| 設計・監理 | 株式会社熊谷組関西一級建築士事務所 | A. 環境配慮デザイン | B. 省エネ・省CO2技術 | C. 各種制度活用 | D. 評価技術/FB | |
| 施工 | 株式会社熊谷組 関西支店 | E. リニューアル | F. 長寿命化 | G. 建物基本性能確保 | H. 生産・施工との連携 | |
| | | I. 周辺・地域への配慮 | J. 生物多様性 | K. その他 | | |

まちの新たなシンボルとなるサステナブルオフィス

はじめに

本建物は、京都府向日市（JR向日町駅）の東に位置する森本東部地区計画内（向日市が目指す産業拠点地区）において、ニデック株式会社様が新拠点（拠点名称：ニデックパーク）を掲げる第1期社屋として建築された自社ビル（事務所兼研究施設）であり、まちの新たなシンボルとなるオフィスビルである。

デザインコンセプト

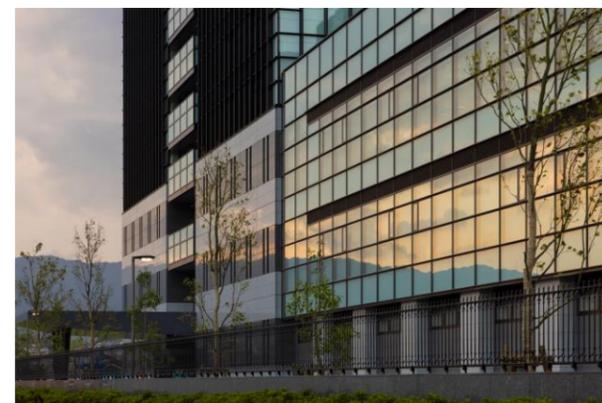
「建物コードの継承」隣接するニデック株式会社本社ビル・本社ANNEXグローバル研修センターの、重厚ある存在感と外装材を継承する外観デザインとした。

「圧迫感の緩和」横150m、高さ20m～50mの長大壁面による周辺への圧迫感の緩和のため、高層棟(C-1棟)・低層棟(C-2棟)・中層棟(C-3棟)の構成によるスカイラインの変化と、バルコニー・スリッド・大庇による壁面の細分化により、圧迫感と長大感の軽減を図った。また、大規模カーテンウォールの採用により、ボリューム感の軽減と季節・陽ざし・時間の移り変わりによる多様な表情変化を実現した。

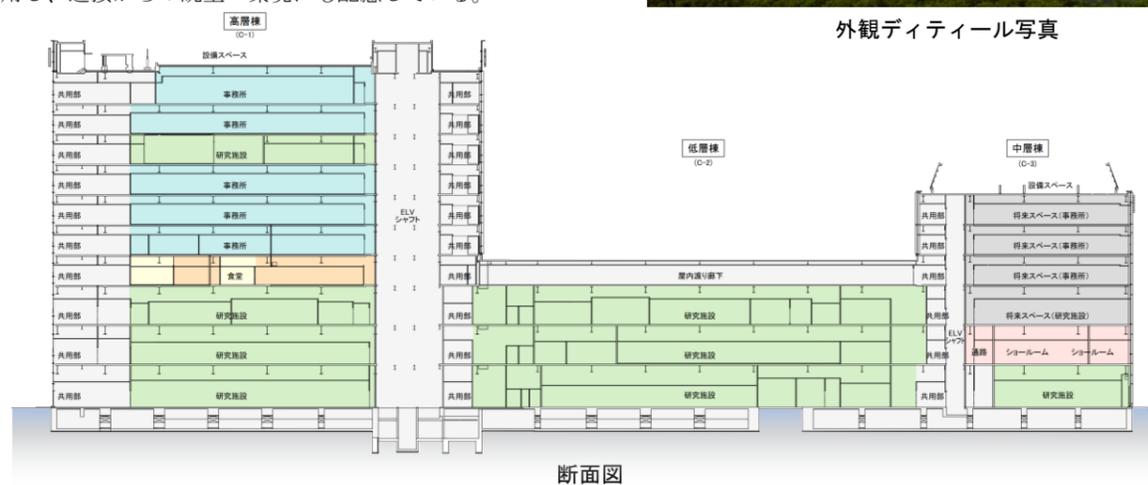
「カーテンウォールデザインの工夫」カーテンウォールの単調さを解消すべく強調した縦横フィン、外観に陰影をつけるだけでなくプライバシーの軽減や陽射・外壁熱負荷の軽減に寄与している。また、カーテンウォールの色彩は落ち着きと華やかさのある色を採用し、近接からの眺望・環境にも配慮している。



南西面外観写真



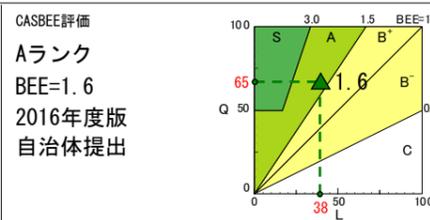
外観ディテール写真



断面図

| | |
|-------|------------|
| 建物データ | |
| 所在地 | 京都府向日市 |
| 竣工年 | 2022年 |
| 敷地面積 | 32,011㎡ |
| 延床面積 | 48,571㎡ |
| 構造 | S造 |
| 階数 | 地下1階、地上10階 |

| | |
|----------|----------------------------|
| 省エネルギー性能 | BELS ★★★★★ ZEB Oriented |
|----------|----------------------------|



環境配慮コンセプト

「地球環境」
雨水利用・外構及び屋上の緑化・オフィス照明の画像センサー管理をはじめ、外壁断熱・Low-eペアガラスの採用による断熱性の向上や、アルミカーテンウォールのフィンによる日射遮蔽効果、高効率空調機やCO2濃度による外気量制御を図ることで、エネルギー消費量の44%削減を実現。BELS認定制度に基づくBELS認証★★★★★/ZEB Orientedを獲得した。

「研究・開発環境」
高負荷な研究・開発環境にも対応可能な建物構造（階高・床荷重・床面積の確保）や最先端技術を扱う施設として建屋内外でのセキュリティ強化を図っている。

「執務環境」
京都府下では初※となるCASBEE-ウェルネスオフィス最高ランクのSランクを取得。屋上庭園をカフェテラスや休憩スペースと一体的に計画しワーカーへの快適性に配慮することや、ヘビーデューティーゾーン・OAフロアを採用（事務所フロア）し、家具レイアウトの自由度を向上させている。

また、活動的・自律的に業務内容や気分に合わせて働く時間と場所を自由に選択するという働き方である「ABW」Activity Based Working（アクティビティ・ペースド・ワーキング）を導入している。労働時間の省力化・効率化に寄与するITシステムの活用や、ダイバーシティへの対応としてもALL Genderトイレ・礼拝室等を設けるなど、誰もが働きやすいオフィスづくりに努めている。

※2022年5月時点での調査結果による



設計担当者：株式会社熊谷組関西一級建築士事務所
設計・監理：塩川武 / 設計責任者：井塚通浩
建築：高塚大輝、鈴木大
構造：福井健洋 / 設備：西川昭良、檜垣龍壽、川田将樹

基本構想策定 設計・工事監修：株式会社都市居住文化研究所
C M 設計・工事監修：株式会社安井建築設計事務所

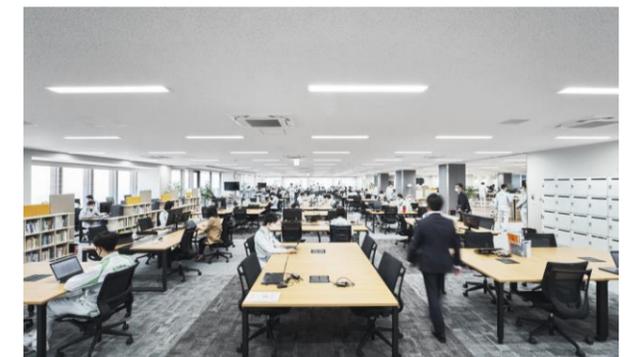
- 主要な採用技術（CASBEE準拠）
- Q1. 3. 光・視環境 (スパン毎の画像センサーによる調光制御)
 - Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (敷地内緑化、屋上緑化)
 - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (植栽による良好な景観、新たなシンボルの形成)
 - LR2. 1. 水資源保護 (省水型機器の採用、雨水利用)



エントランスホール写真



屋上庭園写真



執務フロア写真1



執務フロア写真2